

豊潤の里 だより

木谷自治協総会は書面による議決に ～新型コロナウイルス感染拡大防止のため～

5月15日開催予定の令和2年度木谷自治協議会総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面による議決に変更しました。事前に対象役員67名に総会資料を送付し、65名から回答を得ました。第1号議案から第8号議案まで反対票はなく、すべての議案が承認されました。

議決用紙内に設けた「意見・質問欄」に、新型コロナウイルスの影響に関するご意見やご質問が書かれていましたので、主なものを要約してご紹介します。

- ① 小学校との交流会(6月)、教育講演会(10月)、合同ふれあいサロン(11月)、ものづくりふれあい集会(1月)は、今年は中止として学校に早く言われたらどうでしょうか。(回答:国・県・市の感染拡大防止策を踏まえ、小学校と連携しながら実施するかどうかを決めていきたいと思えます。)
- ② 自治協主催の敬老事業「福寿の会」が実施できるか心配していますが、実施できるとして今回は例年のような参加団体募集型ではなく参加お願い型にしてはどうでしょうか。(回答:会が実施できるかどうかは、国・県・市の感染拡大防止策も勘案しながら検討し、参加団体を決める方法については福寿の会実行委員会で協議したいと考えています。)

未知のウィルスとの共存が求められる社会

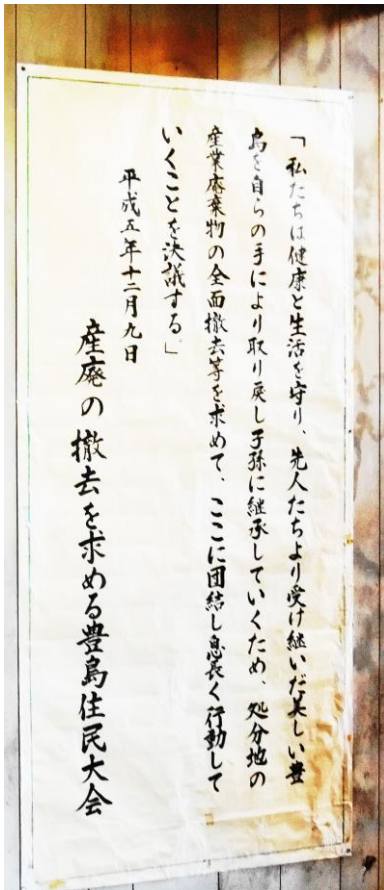
木谷自治協議会 会長 吉田清志

5月15日の新聞朝刊に「緊急事態宣言39県解除」の記事が大きく載りました。年初から世界的規模で広がった新型コロナウイルスの感染は、日本国内では第1波に収束の兆しが見えてきました。しかし感染拡大防止のため、東京オリンピックをはじめ木谷の地域運動会など様々なイベント・行事が延期または中止されました。また休校や不要不急の外出自粛、特定業種への休業の要請もあり、現在も経済活動や文化活動を制約しています。

これまで当たり前のように行っていたこと“多くの人が集い、ふれあい、語り、楽しく飲み・食べること”が、「密閉」「密集」「密接」の三つの密を避けながら、用心深く行うことになってしまいました。未知のウィルスの存在を前提とし、それと共存しなければならない社会の到来といえます。木谷自治協議会においても、5月に予定していた令和2年度の総会を、役員による書面での議決に替えさせていただきました。今後とも皆様のご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

てしま 豊島事件に学ぶ 2

「世の中、弱い者は泣くしかないが、真実と道理がある」（中坊公平弁護士のことば）



広島県は中立的立場にある。当然のことである。産廃最終処分場を建設しようとする業者が提出する書類に不備が無ければ、県は許可を出す。そこでは住民の生活・気持ちを顧みられることはない。何もしないこと。これも「中立」と言えるのか。一方、有害廃棄物を捨てる民間業者は資金力があり専門知識も豊富に持ち合わせている「プロ集団」。ときに裏社会の力を借りて暴力を駆使することもあると聞く。彼らも「いわゆる強者」である。

さらには過疎の問題がある。豊島は瀬戸内海に浮かぶ過疎の島で廃棄物を船で搬入しやすい。それゆえに被害を受けた。日本国中至る所が過疎地になりつつある。過疎地は「弱者」である。「強者」である大都市から出されたゴミや有害廃棄物等、要らなくなったものはすべて過疎地に持ち込まれる。どうしても力が強い者には勝てないから、諦めて妥協に妥協を重ねるとか、泣き寝入りしたほうが苦勞しなくて済むとか、それよりお金をもらったほうが得だとか・・・。

当時の豊島は人口約 1,500 人の小さな島。といっても全員が同じ集落に住んでいるわけ



ではない。3つの集落に分かれて暮らしている。廃棄物の捨て場に近い集落に住む人々にとって、

この問題は身近である。が、やや離れた集落に暮らす人々には「自分らの問題」として関わる気がどうしても薄れてしまう。また職業も様々で、農業、漁業、島外へ働きに出ている人もいる。そういった人たちが、集落・職業・年齢といった垣根を越え、住民という立場だけで結束することの難しさがあったという。産廃処分業者による「分断」もかけられたという。



結局、豊島の人々は有害廃棄物の問題を島全体の問題と捉え正面から闘った。45年間闘い、今も闘い続け、島は元の豊かな姿に戻りつつある。

「誰かがやってくれる」という依存と「自分さえ良ければよい」というエゴに立ち向かい、自立を果たすことが問題解決の近道であると記されている（第1回豊島・島の学校パンフレットより）。豊島事件からの学びに敬意と感謝。

◎ 新型コロナウイルス感染の拡大を防ぐため中止した主な行事

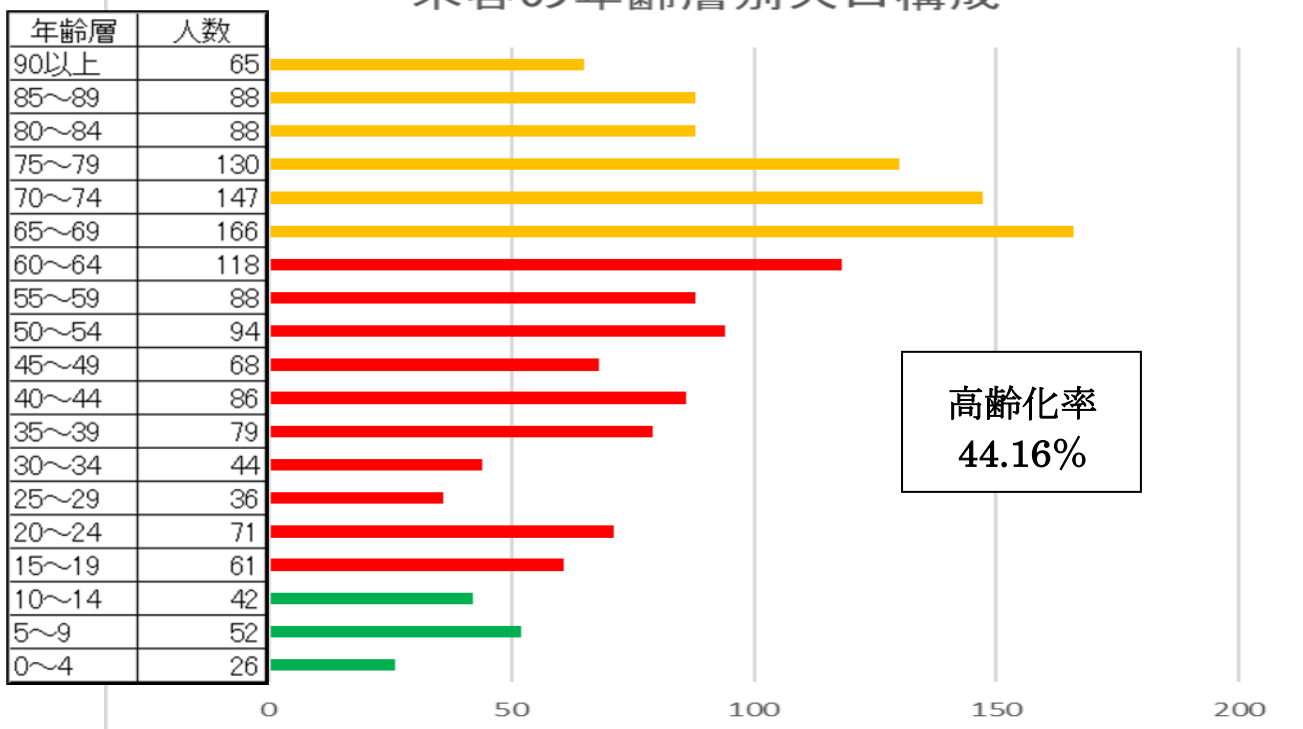
実施予定月	行事名	実施予定月	行事名
3月～	お茶の間サロン・通いの場	5月	赤崎と郷の神社例祭での神楽の奉納
3月	友愛訪問（高齢者におはぎ進呈）		赤崎地区ソフトボール大会
4月～	放課後子ども教室		郷川美化（アダプトNETひろしま）
4月	「シロウオと遊ぼう」（観察会）		郷川でのホテルの観察会
	郷地区大運動会		地域運動会（木谷小の運動会の後）

土のうづくりは中止に

お知らせ：例年6月第一日曜日に実施していました「土のうづくり」を、今年は中止することになりました。大雨に備えるためなどで土のうが必要な方は、西之谷の土のう置場（安芸津バイパス接続道路高架下）に積んであるものをお持ち帰りください。在庫が無くなった場合は土砂を土のう袋に詰めてお持ち帰りください（土のう袋とスコップは同所に置いてあります）。

下の図表は、令和2年3月末現在の木谷の年齢層別人口です。人口に占める65歳以上の高齢者の割合（高齢化率）は、昨年度比1.54ポイント上昇して44.16%になりました。また14歳以下の子供の数は120人と昨年度比で12人減少しました。

木谷の年齢層別人口構成



木谷の人口（住民基本台帳）	世帯数	人口（男女計）	男	女
令和2年4月末現在	696	1546	754	792
平成31年4月末との比較	-2	-39	-15	-24

編集：木谷自治協議会事務局 広報担当